

## Digital Performer 10.0 お読みください

Digital Performer 10.0をご使用いただきありがとうございます。

\*\*\*\*\*

### 完全版DP10説明書

DP10インストーラーには、全てのDP10説明書（PDFファイル）が含まれています。これらのファイルは、Digital Performerアプリケーションのヘルプメニューからも直接アクセスすることができます。

### 変更と新機能

DP10の新機能については、Digital Performerヘルプメニュー>Digital Performer 10の新機能をご覧ください。

**クリップウインドウ** — クリップウインドウでは、ライブパフォーマンス中のオーディオ、及びMIDIクリップのトリガーを実行します。クリップエディターでは、クリップの作成、編集、表示を行います。

**オーディオストレッチエディットレイヤー** — シーケンスエディターとウェーブフォームエディターにストレッチエディットレイヤーが追加されました。ストレッチエディットレイヤーでは、オーディオビートをストレッチすることによりそのタイミングを編集します。

**ビートディテクションエンジン2.0** — ビートディテクションエンジンが新しくなりました。

**ウェーブフォームエディターの改良** — ウェーブフォームエディターを改良し、より使いやすくなりました。

**コンテンツブラウザ** — コンテンツブラウザでは、Digital Performerのプロジェクトにドラッグ&ドロップできるアイテム（オーディオファイル、ループ、プラグイン、バーチャルインストルメント、クリッピング等）を表示します。

**VCAトラック** — クラシックなアナログコンソールをモデルにしたVCAトラックでは、複数のトラックの相対的レベルを一つのフェーダーでコントロールします。非常にフレキシブルなVCAトラックは、他のVCAトラックからコントロールしたり、VCAト

ラック内にサブグループを作成することも可能です。サブグループを作成した場合でもミックスオートメーションを正しく保持します。

**VST3対応** — VST3プラグインとバーチャルインストルメントに対応しました。

**MOTUインストルメントサウンドバンク** — DP10には5.5 GBのマルチサンプルインストルメントライブラリー、シンセ、ループ、フレーズが付属します。(300種以上のインストルメント、1100インストルメントプリセット、500ループを含む) 付属カテゴリ：アコースティック/エレクトリックドラムキット、ピアノ、ギター、ベース、チャーチオルガン、エレクトリックオルガン、弦楽器、金管楽器、木管楽器、シンセ、民族楽器、合唱、ボイス、打楽器、サウンドエフェクト等。

**ユーザーインターフェイススケール** — Digital Performerのユーザーインターフェイス全体表示(全てのウィンドウとテキストを含む)を拡大、及び縮小することができるようになりました。ハイレゾリューションのRetinaディスプレイでは特に便利な機能です。

**コマンド実行ウィンドウ** — シフト-スペースバー(または、セットアップメニュー>「コマンド実行…」コマンド)でコマンド実行ウィンドウを開きます。コマンド実行ウィンドウでは、コマンドライン形式のインターフェイスで必要なコマンドに迅速にアクセスします。この機能は、macOSのスポットライトやWindowsの検索機能によく似ています。この機能には、いくつかの設定項目があります。

**クオンタイズ機能の改良** — MIDIノートのクオンタイズ時に、MIDIノートに付随したMIDIコントローラーデータの移動の有無を指定できるようになりました。また、サウンドバイトのプラグインオートメーションデータの移動の有無も同様に指定することができます。

**グループクオンタイズの改良** — 前述の「クオンタイズ…」コマンドと同様に「グループクオンタイズ…」コマンドでも、MIDIコントローラーデータとオーディオオートメーションデータの移動の有無を指定できるようになりました。

**オルタネートツール** — 作業効率を高める為、メインツールに加えてオルタネートツールをご用意しました。

**絶対vs.相対グリッドスナッピング** — グリッドに吸着機能(スナップ情報ウインド

ウ)の初期設定では、データをタイムライン(絶対値)に吸着します。これに対し、相対スナップチェックボックスを選択すると、データのオリジナル位置間隔を保持したままデータの吸着を実行します。

**グリッドに吸着機能のオートモード** — グリッドに吸着機能に2つのモードを追加しました。固定値モードでは、グリッドのサイズを指定します。オートモードでは、作業中のエディットウィンドウのズームレベルを考慮してDPが適したグリッドサイズを決定します。。

**トランスポートキューイングの移動間隔** — Digital Performerのメイントランスポートコントロールにあるキューボタン(早送り/巻き戻し)の移動間隔を設定することができるようになりました。例えば、低速早送り/巻き戻しボタンを1小節に、早送り/巻き戻しボタンを4小節に設定することができます。設定単位には、ビート、ティック、フレーム、秒等を使用することができます。

**リージョンコマンドプリセット** — リージョンメニューのコマンド(クオンタイズ、トランスポーズ、デュレーションを変更、スプリットノート)でプリセットを作成できるようになりました。

**イベントリスト”クイック”フィルター** — イベントリストの上部にクイックフィルターセクションを設け、イベントリストに表示したくないデータの種類を簡単に指定できるようになりました。

**シーケンスエディターのエフェクトインサート** — シーケンスエディターのトラック設定パネルの横にエフェクトインサートの表示パネルを追加しました。

**トラック表示の改良** — トラックリストで複数のトラックを選択し、上下にドラッグ移動することが可能になりました。

**MIDIコントローラーデータのオーバーダブ** — MIDIコントローラーデータのオーバーダブ時、トラックのオートメーションモード設定(タッチ、ラッチ等)に応じて新しいデータを古いデータの上に上書きできるようになりました。

**トラックデータクリッピングの改良** — トラックデータを含むクリッピングをトラックリスト、トラックオーバービュー、シーケンスエディターへドラッグ&ドロップ可能になりました。ドラッグ&ドロップ時には、1オペレーションで新規トラックを作成し、

タイムラインの任意の位置へドロップすることができます。また、クリッピング内の複数のトラック間のバス設定も保持します。

**ズームメニューの統合** — シーケンスエディター、ドラムエディター、MIDIエディター、ウェーブフォームエディターのズームコマンドを、表示メニューの「ズーム」コマンドに統合しました。

**サウンドバイトドラッグの改良** — シーケンスエディターでサウンドバイトをドラッグ移動する際、サウンドバイトの外枠だけではなくウェーブフォームも表示したまま移動できるようになりました。また、新しい位置情報やオフセット、スタートタイム、エンドタイム等を示した情報タブも併せて表示します。

**MIDIノート表示設定** — 環境設定のMIDI編集に新しい設定事項を追加しました。グラフィックエディターのノートグリッドに表示するMIDIノート内にノートナンバーやオンベロシティバーを表示することができます。

**ドラッグのキャンセル** — エスケープキーを押して、ドラッグのキャンセルを行うことができるようになりました。

**フォーカスセル** — コンソリデイトウインドウ内のセルのタイトルバーをクリックすると、セル枠を強調表示にし、そのセルがフォーカスセル（現在作業中のセル）になっていることを示します。

**バイトゲインフェーダー** — シーケンスエディターでオーディオトラックを縦方向に十分にリサイズした場合、サウンドバイトの左下隅にバイトゲインの設定、及びフェーダーを表示します。

**プレイバックワイパーのグリッド吸着** — プレイバックワイパードラッグ時に、プレイバックワイパーをグリッドに吸着する機能を追加しました。

\*\*\*\*\*

Digital Performer 10をお楽しみください！

Sincerely,

The Digital Performer Development Team

[www.motu.com/techsupport](http://www.motu.com/techsupport)

[www.motu.com/suggestions](http://www.motu.com/suggestions)

©2019 MOTU, Inc.